

52円で約39%になります。

やはり世間での地位から高くしなければならぬのは将官でしょう。

少将であるとして現役時には3150円ですが恩給は30年服役で1382円、約44%です。

ただし、次回に詳しく説明しますが、「勲等年金令」という終身支給年金がありました。陸軍士官の場合は実役満14年半、おおよそ大尉で勲6等が与えられます。ただし、これも恩給資格と同様に加算年月の規定があり、実際はもっと短い期間で叙勲されたといえます。大尉になって満7年で勲5等、少佐満8年で勲4等に陞叙します。年金は勲6等なら84円、同5等で120円、同4等で180円、将官の勲3等ならば360円が下されました。

それに軍功があれば、明治27年9月に制定された金鵄勲章がいただけました。

次回は、日露戦後のインフレなどで改定された1910（明治43）年の給与令や大正時代の臨時手当などをお知らせします。

※参考・引用文献はすべて国立国会図書館のアーカイブで見られるものです。引用はカタカナを平仮名に漢数字を算用数字にしました。

図書紹介

大内 廣 陸自71

竹田恒泰著『現代語古事記』

学研出版

古事記を再発見させてくれる一冊を紹介したい。本書は古事記の丁寧な現代語訳の本文と学説や自説を含む解説とを併記した力作だ。本文は分かりやすい文章で物語が滞ることなく頭に入ってくる。解説には古事記の編集目的、上中下巻の構成と記述区分、編集当時の事情など学問上の定説とともに著者の見解も述べられている。例えば古事記は、大和朝廷の継続性と正当性を国民向けにアピールした最古の公文書、天智天皇の時代までの数百年分の歴史をまとめたもの、日本が神話から現代まで一貫した国であることを示す証拠などという見解は明快だ。古事記について今までしつかりと学んでいなかったことにも気づかされた。皇位継承が喫緊の大問題になっている今、皇室に男系男子が継承されてきたいきさつに注目して読むのも面白い。

この続編に「古事記完全講義」が

ある。本書の解説部分を更に詳しく面白く噛み砕いてある。また著者の中学校の歴史教科書「国史」は文科省の検定に合格し現場で採用されている。戦前使われていた時代区分「大和時代」を復活させるなどきめ細かく教育再建を目指していることも紹介したい。

教育の荒廃と言われ占領政策にその原因を求める論調もある。古事記まで戻って歴史を見直す時期に来ているのではないか。本書はその第一歩としてふさわしい。子供の教育に

関心のある人、海外赴任を前にしている人、日本のことをうまく説明できない人、などにも薦めたい。



(学研出版 定価1870円税込み)

だれでも
手軽に作れて
手軽に食べられる



災害時の非常食に ハイキング・アウトドアの携行食に

話題の「ミリメシ」の元祖

株式会社

ムサシフゾウ
武蔵富装

相談役：志摩 篤（陸自57 防大1）

TEL 03-5296-2833

FAX 03-3256-7388

- 陸上自衛隊戦闘糧食
- ミリメシ 防災あつあつロングライフ
防災丸かじりセット
- 食品用加熱剤「サバイバルヒーター」